

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 30日

富山市長 藤井 裕久 様

提出者

住 所 東京都中央区八丁堀1-10-7

氏 名 日本カーボン株式会社

代表取締役社長 宮下 尚史

代理人： 富山工場長 岡部 英敏

電話番号 076-467-2291

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

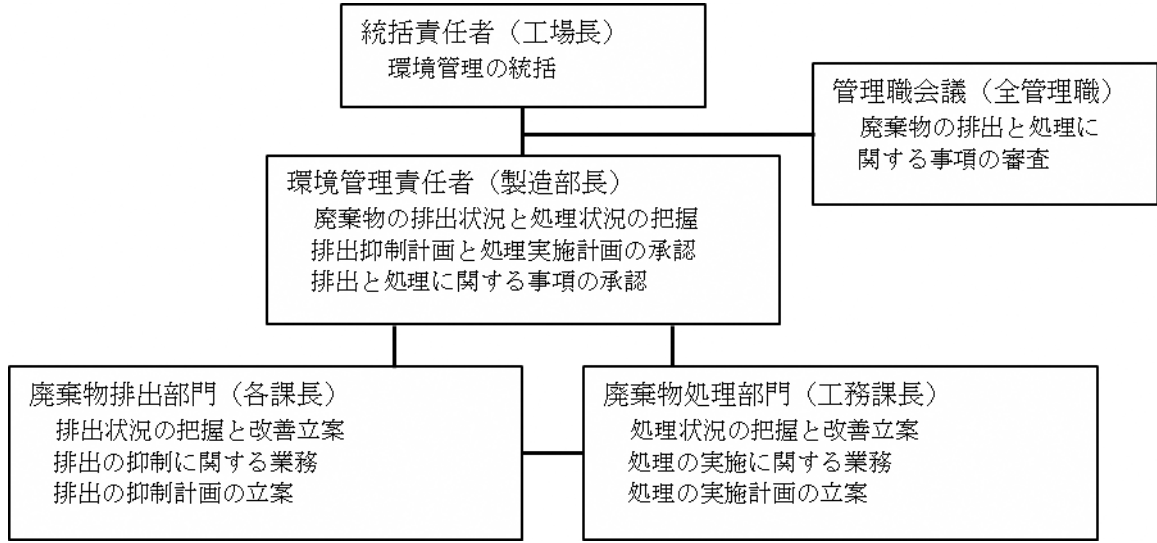
事業場の名称	日本カーボン株式会社 富山工場
事業場の所在地	富山県富山市高内27番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：炭素製品の製造および販売
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 95億円
③従業員数	206名（正社員55名、嘱託1名、常勤関係職員139名）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	*別紙による

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	汚泥	廃油
	60.55 t	79.39 t
	（これまでに実施した取組） 廃油について、有価物として売却もしくは、燃焼できないか検討している。	
② 計画	【目標】	
	汚泥	廃油
	59.33 t	77.80 t
	（今後実施する予定の取組） 現状の取組を継続する。 現状から2% 削減を目標とする。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃油について、有価物として売却もしくは、燃焼できないか検討している。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 燃焼方法を、模索しておりバーナー設計を含めて、基礎実験を進めていく。

(第2面) 別紙1

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
③ 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	廃酸	廃アルカリ
	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 特になし。	
②計画	【目標】	
	廃酸	廃アルカリ
	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） 特になし。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 特になし。	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 特になし。	

(第2面) 別紙2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	廃プラスチック	木くず
	8.32 t	16.93 t
	（これまでに実施した取組） 廃プラ以外の物が混入しない様、分解、分別している。 木材の強度を指定して購入するなど、木材破損量の削減を図っている。	
②計画	【目標】	
	廃プラスチック	木くず
	8.15 t	16.59 t
	（今後実施する予定の取組） 現状の取組を継続する。 現状から2% 削減を目標とする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラ以外の物が混入しない様、分解、分別している。	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状の取組を継続する。	

(第2面) 別紙3

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
② 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	鉋さい	がれき類
	113.76 t	145.34 t
	(これまでに実施した取組) あまり破損していないレンガ屑は分別して再生利用している。 鉋さい（カーボン粉）の有価売却を推進している	
②計画	【目標】	
	鉋さい	がれき類
	111.48 t	142.43 t
	(今後実施する予定の取組) 現状の取組を継続する。 現状から2% 削減を目標とする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) あまり破損していないレンガ屑は分別して再生利用している。	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取組を継続する。	

(第2面) 別紙4

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	管理型混合廃棄物	金属くず
	4.73t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） 混合廃棄物は業者による選別で有価物が除去されている。 単純な形状の廃棄物は、分解、分別を実施している。 金属くず以外の物が混入しない様、分解、分別を推奨している。	
②計画	【目標】	
	管理型混合廃棄物	金属くず
	4.63 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） 現状の取組を継続する。 現状から2% 削減を目標とする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 混合廃棄物は業者による選別で有価物が除去されている。 単純な形状の廃棄物は、分解、分別を実施している。 金属くず以外の物が混入しない様、分解、分別を推奨している。	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状の取組を継続する。	

(第2面) 別紙5

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
② 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	ガラス屑、コンクリート屑、陶磁器屑	燃え殻
	616.25 t	21.24 t
	(これまでに実施した取組) 廃フレコンを有価売却し、燃え殻の発生量を抑える。	
②計画	【目標】	
	ガラス屑、コンクリート屑、陶磁器屑	燃え殻
	603.92 t	20.81 t
	(今後実施する予定の取組) 現状の取組を継続する。 現状から2% 削減を目標とする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特に無し。	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取組を継続する。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—	—
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—	—
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	—
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	—	—
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	—	—
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	—
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—	—
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	60.55 t	79.39 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	60.55 t	79.39 t
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	60.55 t	79.39 t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	59.33 t	77.80 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	59.33 t	77.80 t
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	59.33 t	77.80 t
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全処理委託量	0.00 t	0.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	(これまで実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全処理委託量	0.00 t	0.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	木くず
	全処理委託量	8.32 t	16.93 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	8.32 t	16.93 t
	再生利用業者への 処理委託量	2.68 t	16.93 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	5.64 t	—
	(これまで実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	木くず
	全処理委託量	8.15 t	16.59 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	8.15 t	16.59 t
	再生利用業者への 処理委託量	2.62 t	16.59 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	5.53 t	—
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	鉦さい	がれき類
	全処理委託量	113.76 t	145.34 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	113.76 t	—
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	113.76 t	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	—	145.34 t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	鉦さい	がれき類
	全処理委託量	111.48 t	142.43 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	111.48 t	—
	再生利用業者への 処理委託量	—	—
	認定熱回収業者への 処理委託量	111.48 t	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	—	142.43 t
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	金属くず
	全処理委託量	4.73 t	0.00 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2.62 t	0.00 t
	再生利用業者への処理委託量	2.11 t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	2.62 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 混合廃棄物は中間処理業者による選別で有価物が再生利用される。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	金属くず
	全処理委託量	4.63 t	0.00 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2.56 t	0.00 t
	再生利用業者への処理委託量	2.07 t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	2.56 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	燃え殻
	全処理委託量	616.25 t	21.24 t
	優良認定処理業者への処理委託量	616.25 t	21.24 t
	再生利用業者への処理委託量	616.25 t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	21.24 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	燃え殻
	全処理委託量	603.92 t	20.81 t
	優良認定処理業者への処理委託量	603.92 t	20.81 t
	再生利用業者への処理委託量	603.92 t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	20.81 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—
	(今後実施する予定の取組) 現状から2% 削減を目標とする。		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。